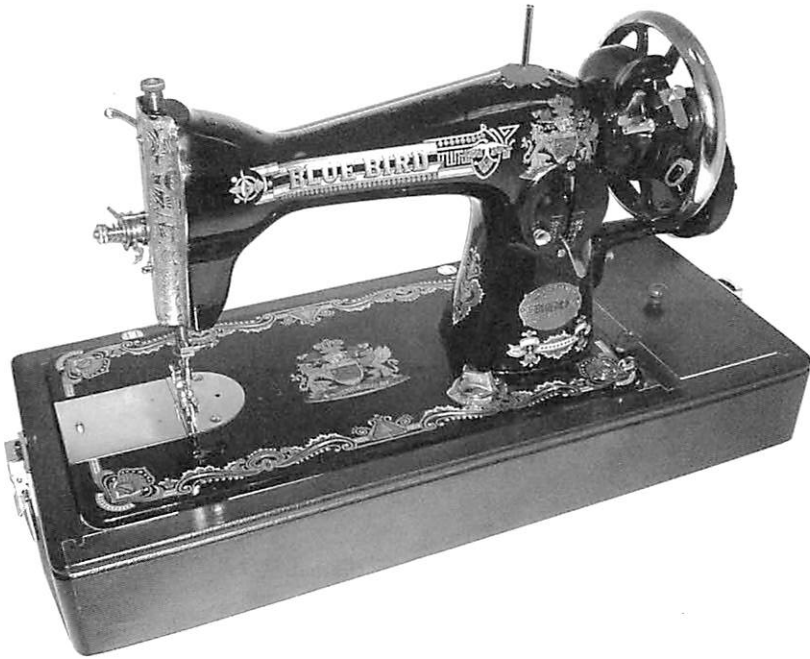


ハンドル手回し式 アンティークーミシン "HA-H"

取扱説明書



この度は本格的直線縫いミシン"HA-H"をご購入いただき、まことにありがとうございます。

本製品は過去一般的に使われていた直線縫いミシンを、現在の小型家庭用ミシンに飽き足りない方や、レトロなフィーリングを楽しみたい方のために、卓上手回しハンドル式として復刻したものです。

機能や機構自体は非常にシンプルなものとなっておりますが、現在の小型家庭用ミシンとは、多少操作の面で違いがございますので、ご使用になる前に本書をよくお読みいただき、操作方法を十分ご理解の上お使いください。

正しくお取り扱いくだされば、楽しいソーイングのパートナーとして末永くお使いいただけます。

●安全にご使用いただくために

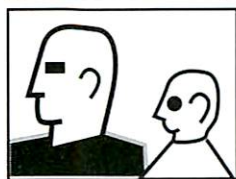
このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

! **注意** けがなどの原因となります。



ミシンの運転中には、針から目を離さないようにし、はずみ車、てんびんなどの可動部に十分に注意をはらい、手や髪の毛などを巻き込まないようにしてください。

また、それらの周りに糸や布などの巻き込まれやすいものは置かないようにしてください。

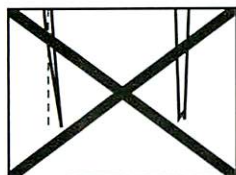


お子さまの近くでご使用になる時には特にご注意ください。

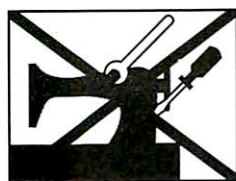
保管の際にも、お子さまが触れられないようにご注意ください。

もし、お子さまがご使用になるときにはできる限り保護者のかたが付き添うようにしてください。

以下のようなことはおやめください。



曲った針、傷んだ針の使用



お客様ご自身での分解、改造

このミシンの取扱いについてのご注意

この製品は比較的重量がありますので（梱包状態で約16キログラム）作業する場所や保管場所にはこの重量に耐える安定した場所をお選びください。

また、持ち運びされる際にはカバーのロックが完全であるかを十分に確認し、落下させないようにご注意ください。



縫う前の準備1

箱から出したら



注意

このミシンは非常に重たいですから、くれぐれも指を挟んだりしないように注意してください

使用時には必ずミシンの下の緩衝材を取り除いてください。



約16キログラムの重さがありますので箱から出すときには慎重に引き出してください。



安全な平な所においてカバー両端のロックを外し、上部のハンドルを持ってカバーを持ち上げます。



ミシンを囲んでいる緩衝材を取り除きます。
(修理等の輸送時に必要ですので、できる限り緩衝材と外箱は保存しておいてください)



図の丸で囲んだストッパーを矢印の方向になるように回し、付属品を取り出して、全て揃っているかを確認してください。



図のようにミシンをしっかりと持ち、向う側へ引き上げます。
(ヒンジになっています。)

ミシンの下に敷いてある緩衝材を取り除き、ミシンを元の状態に戻して先程のストッパーをミシン側に向けておきます。



はずみ車を回してみても異常がないかを確認します。
*はずみ車はいつでも、原則的に手前側に回してください。

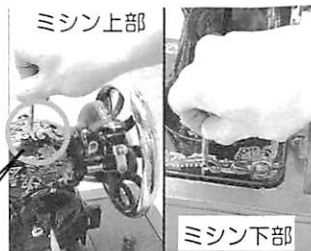
縫う前の準備2

各部の基本的な操作

⚠注意 ストップモーションネジの操作をよく理解しておく。

付属品の中にある2本の糸立棒を図の場所にねじ込む。
(ネジが隠れるくらいまで。付属のドライバー大を使う)

丸で囲んだ3つの穴のうち、まん中の穴にねじこむ。
(穴にネジがきられています)



下糸巻のとき

* ストップモーションネジの操作

左手ではずみ車を持ち、右手でストップモーションネジを反時計回りに回してゆるめると、はずみ車を回しても針が動かなくなります。

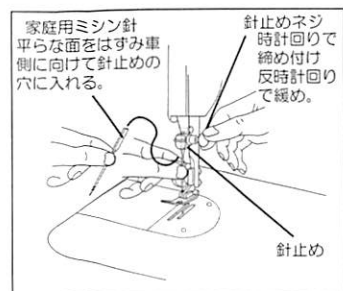
下糸を巻くときにはゆるめます。(ゆるめ方が十分でないとな針が動くことがありますから注意してください。)



縫うとき

縫うときには同じようにして、今度はストップモーションネジを時計回りにしめつけます。

ミシンを使うときには必ず、実際に操作して確かめてください。



* 針の交換方法

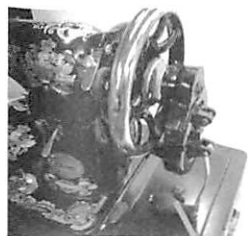
はずみ車を回して針を一番上に上げておき、針止めネジを反時計回りにゆるめて外します。
(固い場合はドライバー小を使う。)

針の平らな面をミシン右側に向けて針止めに奥まで差し入れ、ネジを時計回りにしめます。

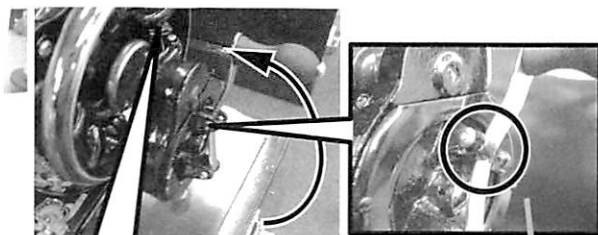
縫う前の準備3

手回しハンドルの使い方

ハンドルを起こし「カチリ」と音がしてロックするまで押し込みます。

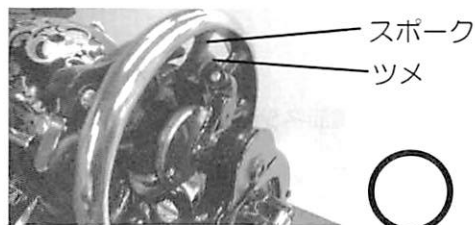


ハンドル



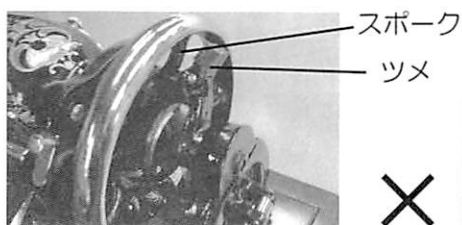
固定つまみがロック

*はずみ車のスポークにツメがかかっているかを確認してください。



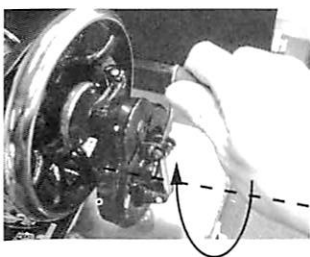
スポーク

ツメ



スポーク

ツメ



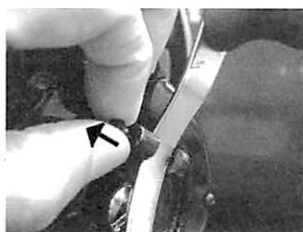
ハンドル方向から見て時計周りにハンドルを回すとミシンが動きます。

*逆回転では縫えません

*あまり速く回したり、乱暴に扱うとツメが外れてミシンが空転して危険ですので、回転させる時には充分ご注意ください。（特にお子さまがご使用になる時にはご注意ください）



ハンドルを回す際にはベースカバーや金具に手が当たらない様に注意して下さい



収納の時にはハンドルを固定つまみを引き上げてハンドルをたたみます。

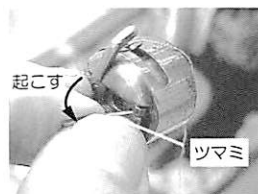
縫う前の準備4

下系の巻き方 1

⚠注意 針が上に上がっていること。



*はずみ車を手前に回して、針を上へ上げておきます。
(基本的に縫うとき以外は常に上へ上げておきましょう)
すべり板をミシン左側に引いてすべらせて、右下の図のようにボビンケースのツマミを起こしながらボビンケースを取り出します。
ツマミを倒すと中のボビンがとりだせますので、下図を確認してください。



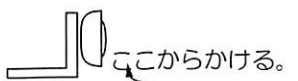
ボビン (付属品も同様)

ボビンの軸穴口の切り欠きと、図に示した糸巻軸の突起の位置を合わせて糸巻軸にボビンの穴を差し込みます。
(糸巻軸は回転しますので図の位置には来ていないかも知れません)

図のレバーの中心と、ボビンの中心が同じ位置にすれば正常です。
こない場合は突起と切り欠きの位置が合っていません。

図の右側のノブを指で強く押し付けたままで、先程のレバーをロックするまで押し下げます。手をはなしてレバーがボビンに接触していれば正常です。

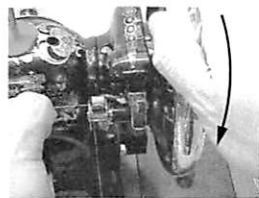
ミシン下部に立てた糸立棒に付属品のフェルトを敷き、ミシン用の糸こまを差し入れます。
次に下系案内台に糸を図のようにかかけます。



縫う前の準備5

下糸の巻き方2

⚠注意 慣れないうちはゆっくりと回すこと。
はずみ車のストップモーションネジがゆるんでいること。

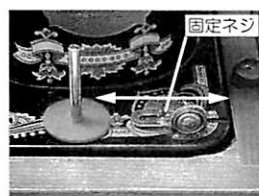


ストップモーションネジをゆるめて針が動かないようにし、ボビンのつばにある穴に図の方向に糸を通し、端を引っ張りながらはずみ車を手前に回して、ボビンに7～8回ほど糸を巻き、余った糸を切ります。



調節ネジ

最初はゆっくり糸を巻きます。
巻き取りの量は、右側のノブの調節ネジで調節できます。
(右回して少なく、左回して多く)



固定ネジ

ボビンの糸巻が片寄る場合には下糸巻案内台の位置を、右に片寄るときは左に、左に片寄るときは右に調節します。
(固定ネジをゆるめて調節します)

どちらも出荷時に調整されていますので、調節の必要は基本的にはありません。(多少のスレは生じます)

付録：針と糸の選択（基本例）

製品には14番の針が付属しています

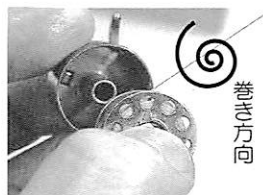
布地の種類	糸の番号	針の番号
薄地 ジョーゼット、オーガンジー、 ポイル、タフタ、絹布など。	綿 80～100 絹 60～80 化繊糸80～100	9～11
普通地 ギンガム、ピケ、リンネル、 サラサ木綿、サテン、 薄手コーデュロイ、別珍、 一般服地など。	綿 50～80 絹 50 化繊糸50～80	11～14
厚地 ギャバジン、ツイード、デニム キルティング、コーデュロイ など。	綿 40～50 絹 50 化繊糸50～60	14～16

針は家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

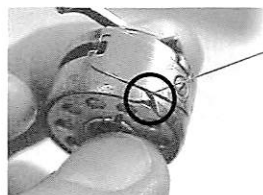
縫う前の準備6

下糸ボビンのセット方法

⚠ 注意 はすみ車のストップモーションネジがしまっていること。
針が上に上がっていること。



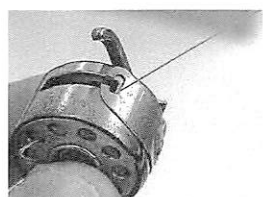
糸巻軸からボビンを抜き、ボビンケースを図の方向に持ち、ボビンを図の巻方向になるように入れます。



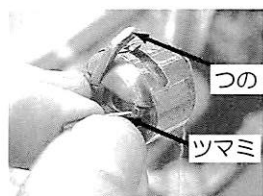
丸で囲んだ部分の切り欠きに糸をかけます。



ボビンが回らないように押えながら矢印方向に糸を引きます。



図の位置に糸がくれば、正常な糸の圧力がかかっています。
糸は10センチほど出しておきます。



つのが上側にくるようにツマミをおこして図のように持ちます。

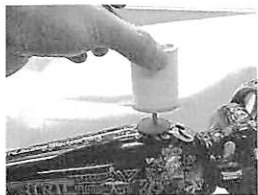


つのと中釜押えの切り欠きの位置が合うように押し込みます。
糸は引っ掛からないようにたらししておきます。

縫う前の準備7

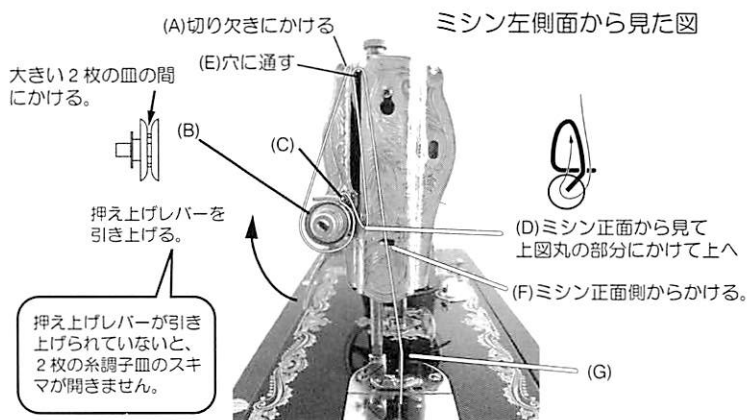
上糸のかけ方

⚠注意 はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。
針が上に上がっていること。

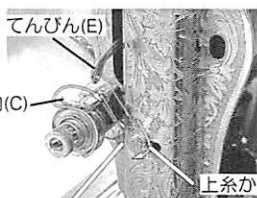


ミシン上部に立てた糸立棒に付属品のフェルトを敷き、ミシン用の糸こまを差し入れます。
基本的には、上糸と下糸は同じ種類の糸を使用します。

押え上げレバーを上げて押え金を上げ、上糸かけ(A)、糸調子皿(B)、上糸案内(C)、糸取りバネ(D)、てんびん(E)、上糸かけ(F)、針棒糸かけ(G)の順に糸をかけます。



糸調子皿(B)に糸をかけ・・・
上糸案内(C)、上糸かけ(F)には図のようにかけます。

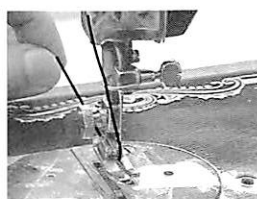


糸取りバネ(D)



針棒糸かけ(G)

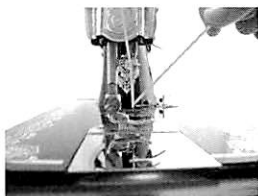
針棒糸かけ(G)にかけてから、図の方向に針穴に通します。
押え金のまたの間にかけて、10センチほど後側にたaraしておきます。



縫う前の準備8

下系の引き上げ／送りの調節

⚠ 注意 はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。
針が上に乗っていること。



* 下系の引き上げ

先程たらしておいた上糸の端を左手で軽く引きながら、はずみ車を右手で手前に1回転させます。



環状に下糸が引き上げられますから、上糸を引いて引き出し、10センチほどミシン後側にたらしておきます。



* 送りの調節

布送りの長さ調節は送り調節ネジの移動で行ないません。

まず、送り調節レバーを上下に動く範囲の中立の位置にし、送り調節ネジをゆるめて、送り調節ネジを円弧状に上下すると、送り調節レバーの動く範囲が変化することを確認してください。

送り調節レバーは、下に押し下げると布が前進し、上に引き上げると布が後進します。

(中立では布が前後しません)

送り調節レバーの横に書いてある数字は、1インチ(約2.54センチ)あたりの縫い目の数ですので、送り調節レバーを押し下げた時に、自分が求める縫い目の長さの数字の横に、送り調節レバーがくるように、送り調節ネジの位置を調節して、ネジを締めつけます。

* 1インチ当たりの縫い目

例えば、10の場合、2.54センチ(1インチ)布が進む間に10の縫い目ができます。

これで準備が整いました。操作方法は理解できたでしょうか？

さあ、縫ってみましょう。

縫うときの操作

⚠注意 はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。

* 送り歯の調節

送り歯ドロップ装置の使い方。
布送り歯の針板からの出具合を、以下の様に調節できます。



一般的な布地を縫うとき（通常時）送り歯が高く出ます。



薄手の布地を縫うとき送り歯が少し出ます。



布の厚さによって押え金の布を押さえる力を調節します。
一般的には、厚地の場合は強く薄地の場合は弱くします。
出荷時には適切な強さに調節されていますので、特に調節の必要はありません。

押え金が布を押さえる力を調節する。（ゆるめすぎないようにしてください）

かがりや、刺繍を行なうときは、以下のようにします。



布地を送りません。送り歯が出ません。

ネジをゆるめて
押え金を取り外す

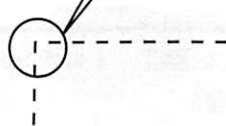


押え金を上げると
楽に外せます。

縫うときには、押え上げレバーを降ろすことを忘れないように！

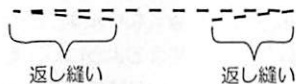
* 縫いの方向を変えるときには。

方向を変えたい場所に近付いたらミシンを止めて、手ではずみ車を回して変えたい場所まで進め、針を布に刺した状態にします。
（完全に停止してから回してください）それから押え金を上げて布の方向を変え、押え金を降ろして縫います。



* 返し縫い。

縫い始めと縫い終り、補強したい場所などは送り調節レバーを上引き上げて、返し縫いをするとう強度が得られます。



縫ってみましょう



注意

はじめはゆっくりと。

はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。

絶対に針の下に、手を持っていかないこと。



最初のうちは、慣れるまで何回か練習してみましょう。また、糸の調子をみることも必要です。押え金の下に布を差し入れ、押え上げレバーを引き下げて押え金を降ろし、一度手ではずみ車を回して、てんびんが一番上がった状態にしておきます。

*はずみ車はかならず手前に回してください。



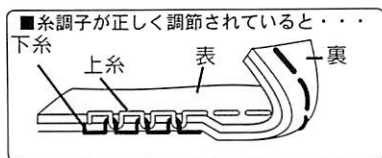
布に軽く手を添えながら、右手で手回しハンドルを時計方向にゆっくりと回します。針が布を貫くまでは、少し強く回す必要があります。最初は加減が難しいかもしれませんが、いきなり力強く早く回すことは、避けましょう。

*糸調子の調節

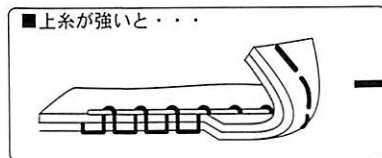
上糸と下糸の調子（張り具合）は上糸調節器の糸調子ネジで調節します。糸調子が適切に調節されていないと、縫い目が揃わなかったり糸が絡んだりします。

糸調子は、使われている糸や布によっても調子が変わります。下の例を参考に調節しましょう。

*糸調子ネジは1回転（360度）以上回さないでください。

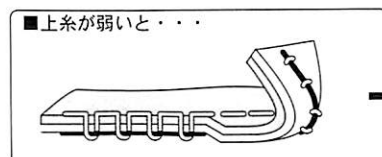


上糸と下糸が布の中間で交差し、糸のたるみ、布縮みのない状態

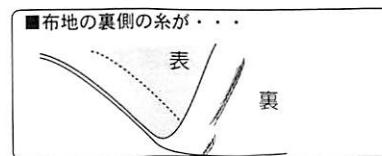


反時計回りに回す

糸調子ネジ



時計回りに回す

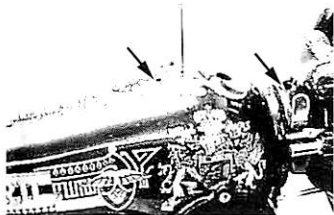


布地の裏側が左図のようになってしまうのは、上糸調子が弱いか、押え上げレバーが上がったままになっているか、上糸が正しくかけられていません。もう一度確認してください。

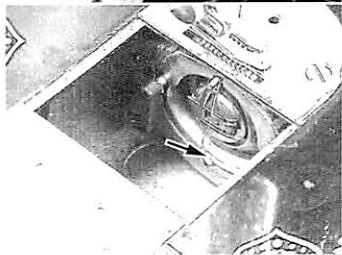
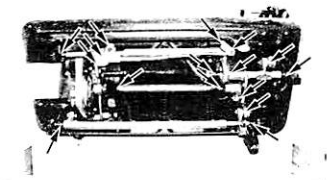
ミシンの手入れ

⚠注意 ミシンが倒れないようにすること。油をつけ過ぎないこと。
針が上に上がっていること。

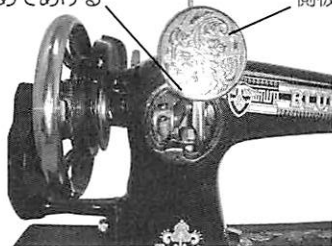
*注油の必要な箇所



*手をはさまないように！



ゆるめてあげる 側板

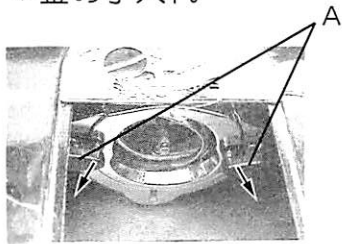


運転時間のべ5時間くらいで、図の矢印の箇所に油をさしてください。差す量は1滴で十分です。差し過ぎると布や糸に油がつく原因となります。

付属の油が切れたときは、手芸店等でミシン油をお求めください。

(絶対にミシン油以外は使用しないでください)

*釜の手入れ



中釜 (トンビ)



釜の位置によって付く方向が変わります

中釜ふた



矢印の突起を下にして取り付ける

左上図のAの押えを矢印方向に開くと上図の部品が取り出せます。

(ボビンケースは外された状態です) 糸屑などが付着しますので定期的に掃除してください。糸が絡んだときなども、同様にして取り除きます。

●こんなときは

●縫い目がとぶ

- ・針は正しく取り付けられていますか？
- ・針先が傷付いたり曲ったりしていませんか？(下図)
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。

●針が折れる

- ・布を引っ張り過ぎると様々な障害がでます。軽く手を添えるだけにしてください。
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。
- ・押え金や中釜など、確実に取り付けられていますか？

●上糸が切れる

- ・糸のかけ方を確認してください。
- ・上糸調子が強すぎる。
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。
- ・釜に糸が絡まっています。取り除いてください。
- ・てんびんを一番上の位置にしないでハンドルを回していませんか。

●上糸がからまる

- ・糸のかけ方を確認してください。
- ・上糸調子が弱すぎる。
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。
- ・釜に糸が絡まっています。取り除いてください。

●下糸が切れる

- ・ボビンケースへの糸のかけ方を確認してください。
- ・ボビンケースのセットのしかたがまちがっている。
- ・下糸調子が強すぎる。(下図)
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。
- ・釜にゴミがたまっています。取り除いてください。

●縫い目が乱れる

- ・送り歯の高さの設定を変えてみる。
- ・押え金の強さを変えてみる。
- ・布送り長さが小さすぎる。
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。
- ・布を引っ張り過ぎている。

■正しい針の選び方

※不良針を使いますと、良く縫えないばかりでなく、針板やカマにキズをつけたり針を折ったりします。



■下糸調子の調節



左図ボビンケースの、丸で囲んだネジを左に回すと弱くなり、右に回すと強くなります。この調節は非常に微妙な為、できるだけ上糸の方で調子を揃えるようにし、慣れた方以外は行なわないようにしてください。

(出荷時に最適な状態に調節されています)

修理サービス要領

■修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係へお申しつけください。

■修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

■無料修理保証期間後の修理サービス

1. 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

修理時送付先


〒544-0022

大阪市生野区舍利寺3-12-5 TEL 06-6717-5851

(株)アックス・ヤマザキ サービス係 行

※ご送付のときは、このミシンの箱と発泡スチロールに収納してください。

お客様相談係

 0120-40-5851

(AM9:00～12:00/PM1:00～5:00 日曜祭日土曜休み)

ミシン 保証書

形名	HA-H	※お買い上げ日		保証期間
		年	月	日
※お客様	ご住所	〒 _____ TEL _____		様方
	フリガナ ご芳名			様
※販売店	住所	〒 _____		
	店名			TEL _____

※印欄に記入のない場合無効となりますので、必ず記入の有無をご確認ください。もし、記入がない場合には、直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。


本書は、本記載内容で、無料修理をさせていただくことをお約束するものです。

- お客様の取扱説明書、本体添付ラベルなどの注意書による正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご持参、ご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。無料修理をさせていただきます。
- なお、保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または直接総販売元へご相談ください。
- 次のような場合は、保証期間内でも有料修理になります。
 - ご使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
 - お買い上げ後の落下や運送上の故障および損傷。
 - 火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、異常電圧、およびその他の天災地変による故障および損傷。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書に、お客様名、お買い上げ日、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書きかえられた場合。
 - 一般家庭用以外（たとえば業務用など）にご使用の場合の故障および損傷。
 - ご使用後のキズ、変色、汚れ、および保管上の不備による損傷。
 - 消耗部品の交換。
- 本書は、日本国内においてのみ有効です。
This Warranty is valid only in Japan
- ご転居の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
- ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げ販売店に修理をご依頼できない場合には、直接下記総販売元へご相談ください。
- 出張修理をご依頼の場合は、出張に要する実費を申し受けます。

修理メモ

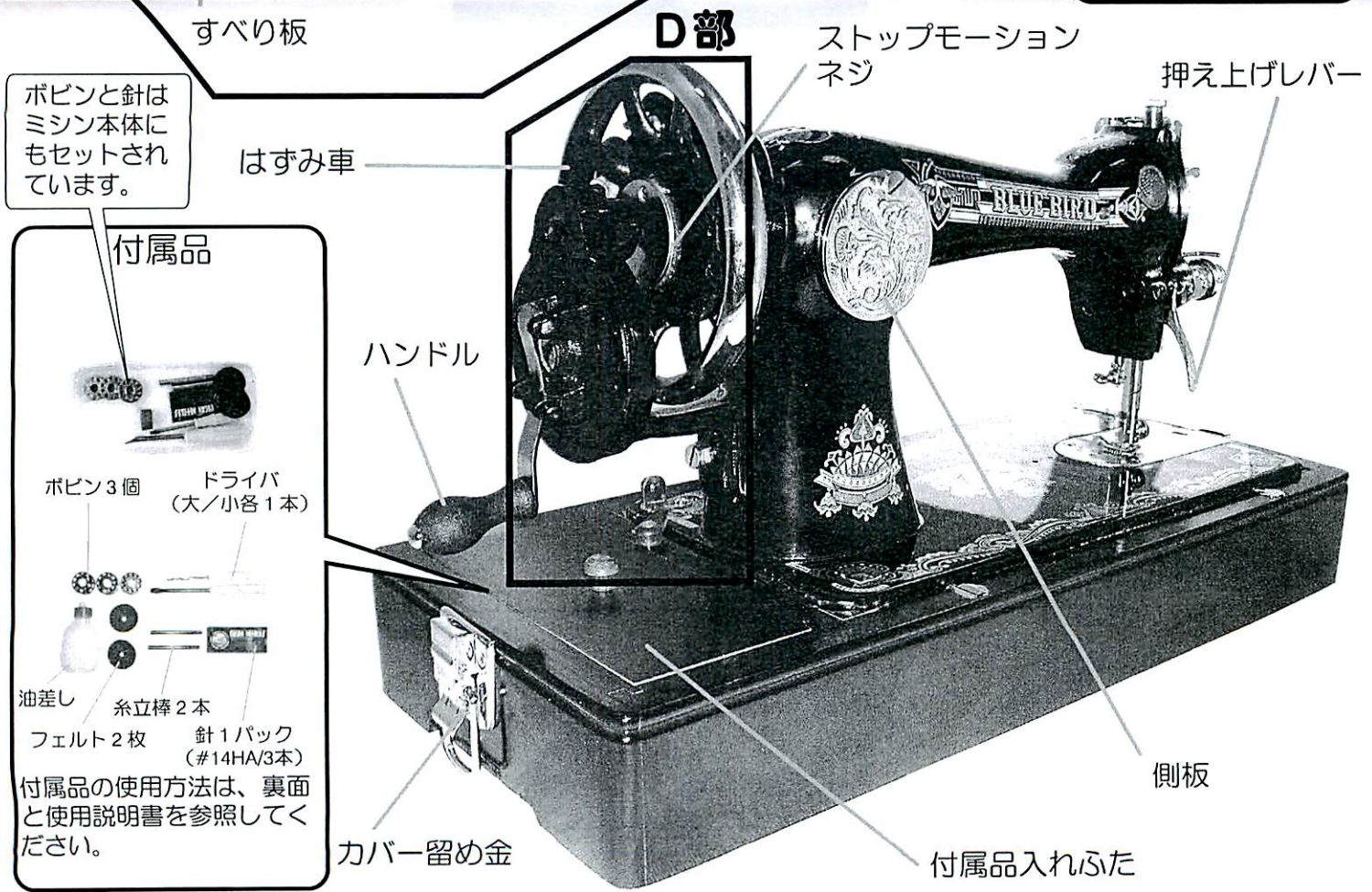
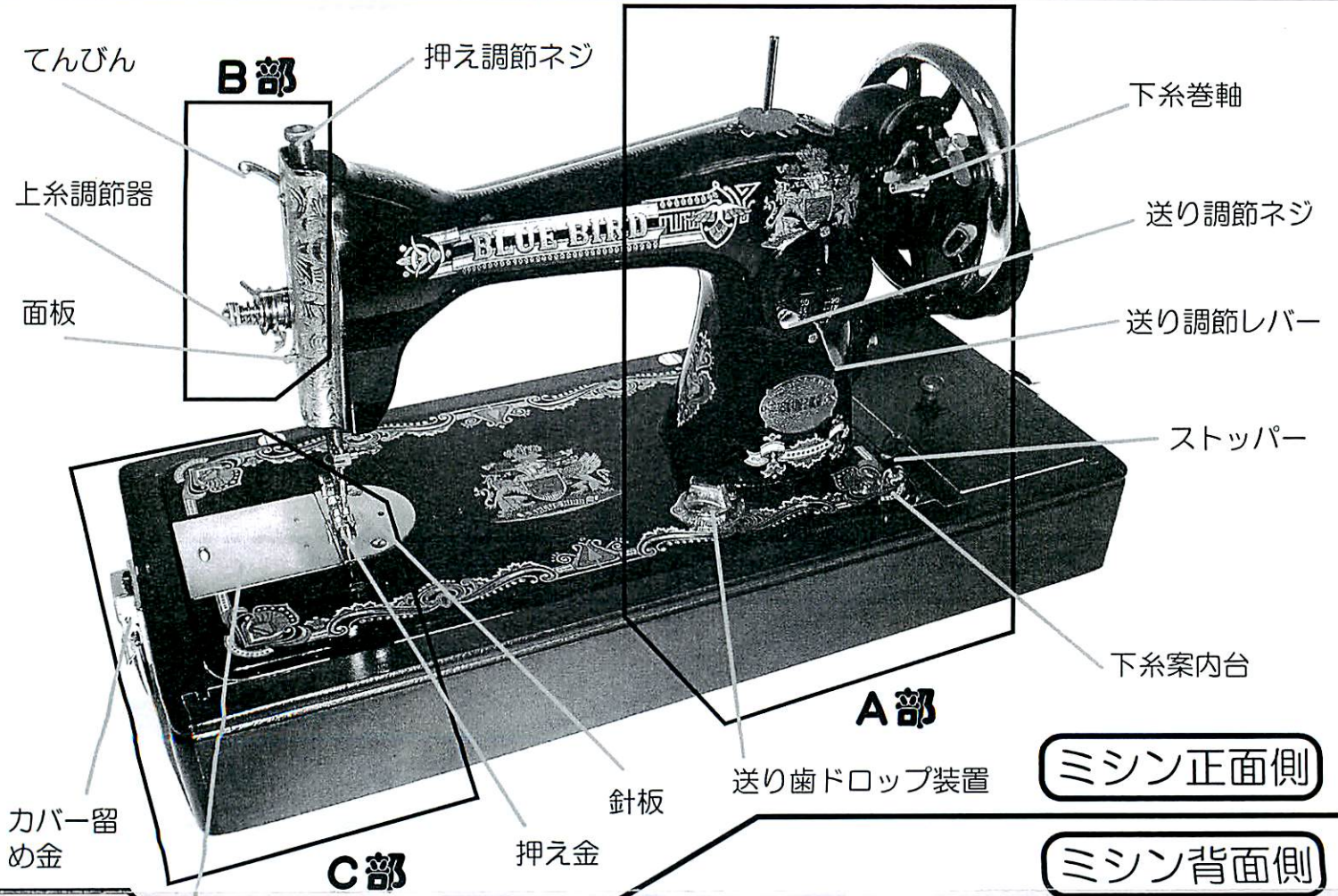
※この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。なお、ご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお客様相談係へ、お問い合わせください。

総販売元

 〒544-0022 大阪市生野区舎利寺3丁目12番5号
 TEL (06) 6717-5851~3/FAX (06) 6741-7875
株式会社 アックス イマザキ

●ミシン各部の名前

取り扱い説明書を見るときに一緒にご覧ください。



ボビンと針はミシン本体にもセットされています。

付属品

ボビン3個
ドライバー (大/小各1本)

油差し
糸立棒2本
針1パック (#14HA/3本)
フェルト2枚

付属品の使用方法は、裏面と使用説明書を参照してください。

●付属品の使い方

取り扱い説明書を見るときに一緒にごらんください。

油差しの使い方

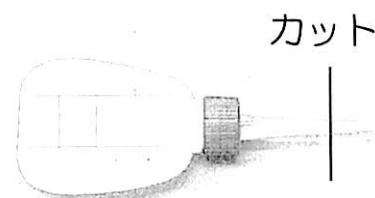
油が漏れることもありますから、注意してください。



中の油がこぼれないように、キャップを開けてノズルを取り出します。



ノズルを入れ替えてキャップを締めます。

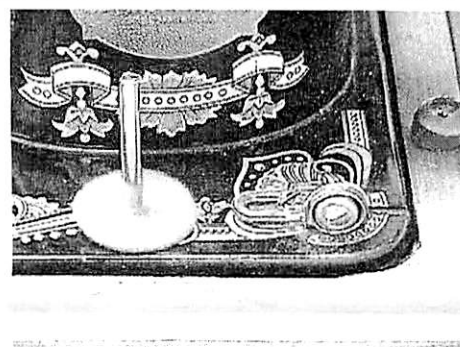
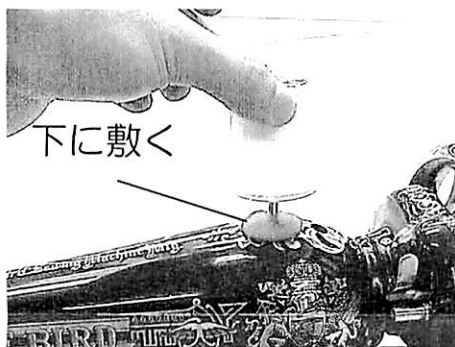


油が出る位置まで(約1 cm)、ノズルを切ります。

フェルトの使い方

ミシンの保護の為に、必ず使用するようになっています。

糸こまをミシンにセットする際に、下に敷きます。紛失したり、やぶれたりした場合は、有り合わせのフェルトを切り抜いてください。



その他

- ・ 針の袋を開封する際には、ケガをしないよう十分注意してください。
- ・ 針の袋を開封する際に、針を傷つけないように注意してください。
- ・ 糸立棒をねじ込むときには、曲らないように注意してください。
- ・ 油差しは油が漏れることもありますから、付属品入れの中に入れておいてください。
- ・ ハンドルを回す際には、はじめはゆっくり回し、手をケガしないよう十分注意してください。
- ・ ミシンケースの上には、物を乗せないようにしてください。

■形式HA-H 製品仕様

ミシン本体 (頭部)	ケース設置状態
幅・・・37.2 cm(ベッド部)	幅・・・53 cm
奥行き・・・17.8 cm(ベッド部)	奥行き・・・22 cm
高さ・・・28 cm	高さ・・・36 cm
重量・・・11.7 kg	重量・・・約16 kg